

農家・農村が TPPPに反対する

本当の理由

「大筋合意」を受けて、参加各国の署名から批准へと向かうTPPP。なかでも日本がいちばん前のめりになっているように見える。TPPPそのものの展開もけっして平坦とはいえず、まだまだ目が離せないが、国内で次々と打ち出される「強い農業」振興策や規制緩和策など、TPPPが連れてくる「TPP的なもの」との向き合い方も重要だ。徹底的に闘うのか、距離を置くのか、利用するのか、無視するのか——年頭に当たり、さまざまな経営の農家の方々にいまのお気持ちをうかがった。